

6月の高温に対する農作物の技術対策

令和元年5月31日

農林水産部担い手支援課

高温に関する異常天候早期警戒情報（令和元年5月30日14時30分気象庁地球環境・海洋部発表）によれば、関東甲信地方は、6月4日頃からの1週間は、気温が平年よりかなり高くなる（7日平均地域平年差+1.7℃以上）ことが見込まれます。

このため、各農作物で的確な技術指導に努めてください

1 施設園芸

- ・施設栽培では妻面・側面を開放するとともに、天窗の開閉や換気扇等を活用した換気を積極的に行う。
- ・作物の光要求性に応じて、遮光資材等を使用し、施設内の温度上昇を抑制する。
- ・遮光資材は、果実の日焼けや葉やけの防止にも有効である。
- ・循環扇は局所的な高温・高湿空気の滞留を防ぎ、室内温度・湿度の均一化が図られるとともに、作業快適性の向上が期待される。

2 露地野菜

- ・葉茎菜類や果菜類のトンネル栽培では、遮光資材の塗布等により葉焼けや果実の日焼けを防止する。

3 果樹

- ・高温に加え少雨条件が続くと、樹勢や果実肥大に影響する恐れがあるため、刈草やわらマルチにより、土壌の乾燥を防止する。特に育成中の苗木は根量が少ないため干ばつによる生育障害を受けやすいので、地表面が乾いているようであれば、こまめにかん水を行う。
- ・日射量が多くなるため、稲わら等を利用し主枝の日焼け対策を実施する。特に苗木では、対策を徹底する。

- ・害虫については、高温・乾燥が続くとハダニ類が急増しやすくなるため、常時観察し、発生が認められた場合は初期防除を徹底する。

4 花き

- ・切り花については、朝夕の気温の低い時間に採花し、常温で長時間放置しない。
- ・前処理剤を使用し、品質維持に努める。

5 畜産

(1) 家畜

- ・飼育密度の緩和、換気扇や扇風機による畜体等への送風や散水・散霧を行い、家畜の体感温度の低下に努める。
- ・寒冷紗やよしずによる日除け、屋根裏・壁・床への断熱材の設置、屋根への消石灰の塗布等により、畜舎環境の改善に努める。
- ・良質で消化率の高い飼料の給与、ビタミンやミネラルの追給及び清浄で冷たい水の給与に努める。
- ・観察の頻度を増加させることにより、健康悪化の兆候がないか等、家畜の健康状態をよく把握し、快適性に配慮した飼養管理に努める。

(2) 飼料作物

- ・今後高温が続くことにより、例年より作業時期が早まる可能性があることを考慮し、準備を進める。